



# ロータリーは 機会の扉を開く



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 渡邊 有規 幹 事 田原 聖 会報・雑誌委員長 伊藤 繁幸

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2911号 2021年6月8日(晴れ) 第37回例会 会員数117名

## ハイブリッド例会

点 鐘 渡邊 有規会長  
司 会 副SAA 野添会員

### ◇ロータリーソング「奉仕の理想」

※マスクを着用し、心の中で斉唱

◇持ち帰り弁当 前菜 豆腐ハンバーグ 一口ビーフ  
木の子ソース 巻湯波と野菜の煮物 海老と穴子の  
煮物 いなり寿し



ビジター紹介 倉井会長エレクト

◇歴史研究家・作家 島 遼伍様(卓話講師)  
随行 佐藤まさ子様

◇米山記念奨学生 テット チャンソティア

会長挨拶 渡邊(有) 会長

皆様、こんにちは。今日は暑い中大勢の方にご参加いただき、また、オンラインでもご参加いただき、ありがとうございます。先日の理事会で、オンライン等も含めて、ロータリークラブもIT化をしていこうと、今盛んに計画をしているところです。

さて、今日、皆様にお話したいと思ったのは、いろいろな会や企業の中で聞く、「四つの壁がある」という話です。第一の壁は「無自覚の壁」です。自分自身のビジョンや問題が共有できていないという自覚がない、という壁です。第二の壁は「無関心の壁」です。大勢の会員や社員が、そのことについての関心が薄かったり、関心が多々に渡って一つに集中していないということがある、ということです。三つ目の壁は「無知の壁」で、知識がないこと、知らないことが人生や企業の発展に壁を作るといことです。そして第四の壁は大きな壁でございますが「無責任の壁」です。「それは私の仕事ではありません、あなたの仕事でしょ。」そういった壁があります。この四つの壁を乗り越えて、打ち壊していくことが、リーダーの企業を作る力とのことで

した。私も日々、企業の中で努力しているところですが、多々、思いが余ることもあります。そんな中、商工会議所で「未来を想うときに歴史にかえりなさい」という言葉を聞き、そこで、本日お越し頂いた島遼伍先生のお話をお聞かせいただき、非常に感激いたしました。日本の多くの歴史の中に、栃木県の位置が、そして今が、どのようにあるかを教えていただきました。ちょうど今、NHKの大河ドラマをやっていますが、その主人公の渋沢栄一と栃木県がどのように繋がっているか、是非お聞かせ願いたいと思いました。

ご紹介になりますが、本日は先生のご本である、転生那須与一、名門下野宇都宮家二十二代記、宇都宮家の系図、などお持ちいただいております。先生のサインが入っておりますので、お求めいただき、是非、お読みいただければと思います。今日は、過去に、未来に想いをはせて、先生の世界に浸っていきたくと思っています。

### ◇奨学金の授与

米山記念奨学生 テット チャンソティア君



幹事報告

田原幹事

◇本日18時30分~ ホテルニューイタヤにて 渡邊年度第14回6月定例理事会開催。

◇姉妹クラブの鳳山西区ロータリークラブから35周年記念誌届く。レターBOXに配布。



委員会報告

◇次年度親睦委員会 谷田部次年度親睦委員長  
本日例会終了後、第1回親睦委員会開催。



## 卓 話

「激動の幕末小史 一 渋沢栄一が目指した尊皇攘夷と水戸黄門」



歴史研究家・作家 島 遼伍 様

皆さん、こんにちは。今日は、会長から「渋沢栄一と栃木県についてのお話を」とのことで、このような資料を作りました。渋沢栄一は今の深谷市の血洗村の名主の倅に生まれました。大きく分けると彼の人生は、一橋家臣時代、幕臣時代、明治の官僚時代、実業家時代の4つに分けられると思います。今日は、渋沢栄一が（大河ドラマで）渦中におかれている「尊皇攘夷」を中心にご理解いただければありがたいと思っています。

その前に、渋沢栄一という人間について、自分なりの考察を述べたいと思います。アメリカの哲学者・心理学者のウィリアム・ジェームズが提唱したプラグマティズム（行動主義、実際主義、道具主義とも訳される）という考え方があります。渋沢栄一はそれを実践した最初の日本人である、と考えています。プラグマティズムとは、経験不可能な物事の真理を追究することは出来ない。てっとり早く言いますと、なんでもやってみて、そこから自分の考え方、技術を生み出して発展させなさい、今で言うイノベーション的な発想を持っていたと思います。栄一は若くして尊皇攘夷思想に走り、ついで、一橋家の家臣となって佐幕派に転向しました。官僚を経て、日本屈指の大実業家になるわけです。栄一は、一橋家の家臣となったことで政治の中心であった江戸を知ります。大阪が経済の大動脈であることを知ります。慶喜が15代将軍になると、その異母弟の徳川昭武の随員としてパリ万博に同行し、西洋列強のすさまじい工業力と経済力を目の当たりにします。その時に、攘夷などを行っている場合ではなく、欧米に対抗するには日本も経済力を身につけなければならない、と考えました。そこで、地脈（一橋家臣時代、幕臣時代に京都、大阪、江戸、西洋列強を知る）、人脈、金脈（明治維新後に人の信用を勝ち得た事による集金能力）の3つによって実業家として成功するのですが、そこが、私が、彼がプラグマティズムだという確信を持っている所以です。

栄一の父、市郎右衛門は、血洗村の名主で、蓄財家であったと伝えられています。栄一はその血を引いたと思います。栄一は若い頃、藍染め問屋の奉公をしました。時は幕末、アメリカのインド艦隊司令長

官マシュー・ペリーが4席の黒船を率いて浦賀にやって来ました。攘夷運動がだんだんと高まる中、その熱にほだされて江戸に行きます。そこで、栄一と従兄弟の渋沢成市郎は大橋訥庵の開いた「思誠塾」に通います。訥庵は江戸で佐藤一斎のもとで学び、その秀才ぶりが江戸中に轟きました。日本橋で呉服問屋を営む菊池淡雅の娘の卷子と結婚し、小山出身である淡雅の妻の大橋姓を名乗ります。菊池淡雅の店は本店が宇都宮にあり、その関係で訥庵は宇都宮藩の戸田忠温に学者として招かれました。訥庵は超がつくほどの過激な尊王攘夷思想家でした。桜田門外に続いて、老中の安藤信正が公武合体政策をとったことに反対し、坂下門外の変が起きます。この首謀者として、訥庵は弟の教中と一緒に江戸南町奉行所に捕縛され拷問を受け、出所後に死亡しています。「思誠塾」はなくなりましたが、まだ尊王攘夷の考え方を持っている栄一は従兄弟の成市郎と、どうしたらよいか考えました。訥庵に負けず劣らず尊王攘夷おたくだった徳川斉昭の倅の慶喜（一橋家に養子に行った）ならその思想を持っているだろうと家臣になりました。ところが慶喜は将軍となり、同時に開国主義に傾きます。渋沢栄一も随員でパリ万博に行ったり、京都、大阪、江戸を見て、自分の考え方もやがて変わりはじめます。

そもそも栄一や従兄弟が目指した尊王攘夷思想の生みの親は誰かですが、その答えが本日のもう一つのテーマである、水戸黄門にあります。「黄門」とは唐名です。中国で「中納言」のことを「黄門」といいます。水戸家は代々、中納言の位につきまので、水戸藩主は全部「水戸黄門」になります。水戸家の初代藩主は頼房ですが、光圀を次の藩主にします。光圀の兄の頼重は高松藩主となります。そして、光圀は兄の子供の綱條を養子に迎え次の藩主とし、自分の子供の頼常は兄の高松藩に養子に出しました。光圀はもともとやんちゃで反骨心の強い人でしたが、水戸家を継いで一番激怒したのが、この御三家比較図にあります。

### － 水戸家、紀州家、尾張家の比較図 －

なんで差別されるのか。なんで自分たちだけがこんなに低いのか。禄高でも負ける。官位でも負ける。そこで考えたのが、学問です。光圀は、学問に力を入れました。日本の有史以来の歴史を編纂した「大日本史」という巨大な叙事詩の編纂を、三田上屋敷に彰考館という藩校を作り、はじめました。彰考館に人を集め、最初のうちは和気藹々と良かったのですが、段々と派閥ができました。

### － 水戸藩派閥図 －

幕府後期の総裁の立原翠軒は佐幕派で、総裁代行の藤田幽谷は尊王派です。徳川斉昭が藩主になると、斉昭は超天皇おたくです。時の孝明天皇が「異人を日本に入れられない。攘夷をやれ。」と幕府に迫っ

たので、それまで尊王思想であった水戸藩に攘夷がついて、尊王攘夷となりました。これを、水戸学といいます。水戸学は「大日本史」をベクトルとしてはじまっています。佐幕派の方は、結城寅壽がひとつにまとめていました。尊王派の方は、激派（佐幕派をやっつけないと気に入らない）と鎮派（学者なので論戦はいいが、静かに書いていよう）に分裂します。激派は拳兵派（攘夷で拳兵する）と藩政派（我々は尊王攘夷派だが、あくまで徳川の家臣である。幕府と話あっていこう）に分かれます。光圀は、幕府よりも朝廷が上、というベクトルで「大日本史」を書いていますので、水戸藩士は尊王思想が強い人が多かったのです。拳兵派はいろいろな藩と盟約を結びました。宇都宮藩と「常野同盟」、薩摩藩と「水薩同盟」、長州藩と「成政破同盟」です。拳兵派から天狗党が起こりました。

水戸藩は内戦で、桜田門外の変から戊辰戦争の終結までに約3千人以上死んでいます。幕末の抗争であらかた有能な家臣を失った水戸藩は、維新後の

指導権を薩長に奪われてしまいました。まさか水戸黄門も、自分が編纂するように言った「大日本史」がこれほど多くの家臣を死に追いやり、ましてや、徳川本家が滅亡するとは思ってもみなかったと思います。本日は、渋沢栄一が目指した尊皇攘夷と水戸黄門の一席、ご清聴ありがとうございました。

